

事業区分	文化芸術事業		育成創造事業				
事業名	鳥取県青少年郷土芸能の祭典2008		助成	文化庁			
目的・内容	郷土芸能の素晴らしさを広く県内に伝え、地元の郷土芸能を支える県民を増やすとともに、後継者育成と郷土芸能の活性化を図ることを目的に、平成15年度から鳥取県総合芸術文化祭の一環として実施。県内郷土芸能活動者で構成される実行委員会を組織し、協働で企画運営を行う。 【使命】「文化芸術活動の発信と交流」「文化人口の拡大とレベルアップ」「子どもの文化芸術活動の推進」 【事業計画の柱】の「文化活動実践者との協働による自主企画と自主制作の事業推進」「郷土芸能活性化のための事業推進」「鳥取県総合芸術文化祭の連携推進」「人材						
開催日時	平成20年10月19日(日) 開演14:00						
会場	とりぎん文化会館 梨花ホール						
入場料・参加費 (友の会)	一般500円 (400円)	高校生以下 無料(整理券)					
集客状況	入場者数	833名	設定席数	1,942席			
			集客率	42.8%			
事業費状況	予算額	収入	440,000円	支出	5,660,000円	収支比率	7.8%
	決算額	収入	627,200円	支出	5,064,510円	収支比率	12%
来場者アンケート (主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・何度も見た郷土芸能ではあるけれど、場所によってまた趣きが違い、今日は照明もとてもよかった。何よりこれからの鳥取を青少年で作りに上げて欲しい。最後の浦富八景の音楽はすばらしかったです。 ・2才半の息子が、おとなしく座ってくぎづけ状態で演目を見ていたのには驚きました。楽しかったそうです。アンパンマンやディズニーだけでなく芸能に触れさせるのもいいなと思いました。 ・精魂こめた結果を発表された各チームの出演者、指導者に敬意を払いおしみなき賛辞をささげたいと思います。今年初めてです。鳥取県の誇りとも言えるすばらしい演出でした。次回が楽しみです。 ・青少年が伝統を受け継いでいる姿に感動。古い物の良さをもっともっと地域で広げる運動が出来れば…。資金援助も大切。 ・開始を早くして早めに終了してほしい。 ・開始時刻が中途半端。演目の間に知事の挨拶が入るのは情熱をこわす。 ・子ども達の“一生懸命”“ひたむきさ”がひしひしと伝わってきました。これからは是非郷土芸能を伝承して頂きたい。最後の朗唱漢詩は長すぎる、一考を要す。 						
1次評価 (内部)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演団体の演目はもとより、創作郷土芸能についても高い評価を得ることができた。また、初めて郷土芸能の公演を鑑賞したという方がアンケート回答で40%を超えていること、祭典に対する好意的な意見が多数あり、郷土芸能を伝え、支援する県民を増やすとともに、活性化を十分に図ることができた。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業がスタートした頃と比べ、過去最少の入場者であり、ここ数年減少傾向にある。 ・実行委員長候補の選定に時間を要するなど事業の立ち上げが遅いため、様々な進捗に遅れが発生し広報などに影響がでた。 ・郷土芸能に取り組んでいる子どもの団体数が減っており、埋もれている郷土芸能を掘り起こすなど新たな取り組みが必要。 						
2次評価 (財団評議員)	<p>[成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総体的に熱意はみられる。 ・「事業概要」「目標設定」も十分な事業内容であった。出演者が伝統芸能に思いを馳せていることが、演技に表れていて頼もしかった。 ・継承事業の難しさはあるが、新たな推進体制で取り組み、それなりの成果はあったと思う。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明らかに練習不足とか、指導のあいまいなところも見受けられた。当初の熱気がやや霽りを感じた。創作芸能にも価値はあるが、安易な取り組みは、敵に慍むべきである。 ・創作郷土芸能に違和感があり、西洋楽器が必要か疑問。日本の芸能の本質を理解した事業推進。 ・若者や現役の参加が少ない。子どもたちの鑑賞者の増加。 ・伝承活動の意識は県民に高まりつつあるので、PRIに工夫が必要。 						
今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・準備作業を早めに進め、スケジュール管理もしっかり行う。 ・構成等についても、実行委員会内で時間をかけて議論を行なう。 ・観客数が減少の問題点を分析して、鑑賞者が増えるための新たな手立てを行なう。(出演団体・実行委員に頼りがちな集客を見直し、邦楽・古典芸能関係者への働きかけ、青少年の鑑賞者拡大など) ・出演者のレベルアップ 						